

ウサギのオシッコの色は何のサイン？

ウサギはどんなオシッコをするの？

今回はウサギの尿の色についてお話しします。

ウサギの尿は透明なものから白いもの、濁ったもの、黄色、オレンジ、茶色、赤とさまざまです。

オシッコは汚いし臭いからと、よく見ないでさっさと片付けてしまう人はいませんか。尿は、口から入った食べ物や水が、消化器や泌尿器を經由して、いろいろな情報を道連れにして体外へ出てくるものなのです。どんな病気でも、ごく初期に何らかの兆しが現れます。体に異常があることを知らせる信号を出すのです。

尿で健康チェックをするときのポイントは、色、量、匂い、回数、粘稠度（粘り気。ドロツとしているかサラツとしているか）などです。よく観察することで、その変化を手がかりに、病気の情報を提供してくれることがあります。それは、病気の早期発見、早期治療につながります。

尿をチェックすることで、一番身近にいる飼い主さんが、獣医師より先に病気を発見できるかもしれません。

ウサギの尿の特徴ってなあに？

体の大きさや飲水量にもよりますが、成熟したウサギは濃縮されて濁った尿をします。薄い黄色～黄色～濃いオレンジ～赤褐色～茶色の乳濁色で、他の草食動物のように pH はおよそ 8.2 (7.6～8.8) と、アルカリ性です。

子ウサギの尿は、母乳を飲んでいる時は成熟したウサギより酸性で、沈殿物を含みません。子ウサギが牧草、ペレット、青菜などを食べるようになると、初めて濁った尿になり、不透明になります。

尿が濁っているのは、結晶性の沈殿物が排泄されるためです。主として炭酸カルシウムが含まれており、ケージの表面などに尿が付着すると固まって取れにくくなります。ウサギは他の動物ほど血中のカルシウム濃度を一定に調節しておらず、食餌からの摂取量に応じて、濃度が濃くなったり薄くなったりします。そして、食餌中のカルシウムのほとんどが腸管吸収され、余分なカルシウムは尿に排泄されます。そのため、炭酸カルシウムを大量に含んだ濃いクリーム状の濁った尿が作られるのです。

成熟したウサギでも、絶食したり食物不足、食欲不振などにより尿の pH は 6～7 に低下（酸性化）し、結晶は溶解して透明の尿になります。

また、水の摂取量や食べたものにより、尿の色、濃さ、濁り方などがさまざまに変化します。

「ウサギのオシッコが赤いんです」と病院へ連れてこられたときでも、病気で血尿によって赤い場合と、正常な場合があります。赤いオシッコの 80～90% は正常で、血色系以外の赤色色素（ポルフィリンなど植物色素）の影響による変化です。見た目だけでは区別が難しいので、動物病院で調べてもらいましょう。

色の違いで病気や身体の状態がわかるの

透明の尿

1 授乳中の子ウサギ

尿が酸性で沈殿物を含んでいないため、透明でも正常です。

2 成熟したウサギ

絶食の状態、食物不足、食欲不振などにより、尿が酸性化（pH6～7）すると、結晶が溶けるので透明になります。

赤色尿

1 正常な場合

血液の色素（血色素）以外の赤い色素によるもので、食物や薬の影響を受けます。食物由来のポルフィリン色素やニンジンなどに含まれるカロチンの摂取、松の葉、薬などによります。

2 病気の場合

A 生殖器からの出血には子宮腺癌、子宮内膜増殖症、子宮炎（子宮蓄膿症）、流産などがあります。

B 尿路からの出血には膀胱炎、膀胱腫瘍、尿結石、腎疾患などがあります。排尿の時に、膣などにたまった血液などが一緒に排泄されます。

C 他に、タマネギ中毒など溶血性貧血もあります。

病気がどうかの判断は、血色素反応を調べる細紙片で、赤色色素か血色素かを調べれば簡単です。

病気の場合の治療法

尿路からの出血

膀胱炎

細菌の繁殖が原因で、炎症により尿の回数が多くなります。1回の排尿量は少なく、放っておくと結石の原因になります。抗生剤の投与で治療します。

膀胱腫瘍

血尿が見られますが、膀胱炎のように瀕尿になることは少ないです。尿の出口に近いところに行けると排尿障害が起こります。治療は手術による摘出及び抗癌剤の投与です。

尿結石

牧草のアルファルファやカルシウム含有量の多いフードを与えていると、炭酸カルシウムの結石ができやすくなります。膀胱炎が慢性化しても同様です。痛みがあるので、お腹を緊張させて背中を丸め、じっとうずくまったり、力んだりします。触診、尿検査、X線検査、超音波検査などで結石を確認し、外科手術などで摘出します。

腎疾患

腎炎があるときによく見られます。慢性腎不全では感染が起こりやすく、血尿が見られることがあります。慢性腎不全は、老化による腎細胞の減少により、約75%以上の腎機能が障害を受けて初めて血液検査の数値に表れます。水をよく飲み、尿の量も多くなるので、トイレやケージの底がいつも湿っている状態になります。食欲が低下し、やせて毛づやも悪くなります。血液検査をすると、クレアチニン、BUN（尿素窒素）、リンなどの数値が上昇していることがわかります。治療は、尿毒症を防ぐため、利尿をうながす輸液を中心に、毒素の吸着剤の投与などを行います。

生殖器からの出血

子宮腺癌

ウサギに最も多く見られる腫瘍です。初期は無症状ですが、進行すると流産、死産が増加し、不妊になったりします。膣より分泌物が見られたり出血することもあります。出血のため貧血を起こすこともあります。腹腔、肝臓、肺などへ転移することもあります。治療は卵巣、子宮の摘出手術などです。

子宮炎

細菌感染が主な原因ですが、分娩後の胎児道残でも起こります。膣からの分泌物や出血が見られ、手遅れになると敗血症を起こして死亡します。治療は卵巣、子宮の摘出手術や抗生剤の投与を行います。

その他に、流産、難産、死産などでも、尿に血が混じって赤色尿になります。

異常なオシッコをする病気

カルシウムを控える

尿中へのカルシウム排出率は多くの動物で約2%なのに対し、ウサギは45~60%です。すなわち、食餌からカルシウムを摂りすぎると、どんどん尿に排出されます。カルシウムたっぷりのおやつや、アルファルファの牧草は控えたほうがいいでしょう。

肥満に注意

肥満のウサギは結石や高カルシウム症が多い傾向が見られます。高繊維で低カルシウムのチモシー中心の食餌と、運動不足にならないように心がけましょう。

定期的な検査

定期的に尿検査をして、病気の早期発見、早期治療に結びつけましょう。

避妊手術

生殖器の病気、特に子宮腫瘍は、5歳以上のウサギにおいて、種類によって80%の発症率との報告もあります。これは避妊手術（卵巣、子宮摘出手術）により予防できます。

毎日の観察

ふだんから尿の色、量、匂い、回数、粘稠度などを観察することです。すると、いつもと違うことにすぐに気付くでしょう。

コラム セミナー前の大騒動

非日常的なことを生活に取り入れるということは、刺激的であると同時にエネルギーも必要とする。そんなエピソードです。

何が起きたのかというと、某薬品メーカーから講演を依頼されたのです。タイトルは「飼い主さんとのコミュニケーション」。聞いてくださるのは、動物病院で獣医師のフォローをする動物看護師さんです。そういえば以前アニファでも井上こみちさんが「わたし、動物看護師になります」を連載していたっけ。人気の職業で、日本でも約2万人の動物看護師がいるといわれています。わが家の長女も、この春から動物看護師として社会人になったので、同年代の方たちと接することができるって、講演の依頼は二つ返事でOKしました。

講演会前日の夕方5時。いい具合に診察も終わりに近づき、明日に備えて美容院へ行ってヘアスタイルもカッコよくして、リハーサルをもう1回と計算していたら……。

「先生、急におできがでっかくなっちゃって、早く取らないと破裂しちゃう！ 圧力かかっているよ、絶対！」とビーグル犬のゴンちゃんが来ました。

もう1年も前から「早く取ったほうがいいよ」と、来るたびにお話しして見積もりまで出していたのに、今になって！ と思いました。でも、よく考えると明日のセミナーで動物病院の主役は誰でしょうというお話をします。主役はそう、動物たちなのです。今は主役のゴンちゃんが元気にならないといけないのです。

動物看護師のゆきちゃんが「先生、私は残ります」と言ってくれました。これで脇役の私たちの連係プレーもばっちり、あとはみんなで頑張るのみ。早速手術となり、無事に終わったのは10時。美容院どころかリハーサルも時間切れです。

でも、「先生、無理言ってすみません。ほっとしました」というゴンちゃんのママのお礼の言

葉で、疲れも吹っ飛びました。ゆきちゃんも、大変だけこの仕事を選んでよかったと思う瞬間です。動物病院という命を預かる舞台が、かわいい動物たちと飼い主さん、そして私たちみんなで心をひとつにして感動を分かち合える場にできたら……。という思いを話すのにぴったりのネタが前日に到来というわけです。

さて、家に着いてメールをチェック。すると、ウサギをいっぱい飼っているNさんから、パヤリ君(お父さん)と7匹の赤ちゃんたちの写真が届いていました。「これでぴったり20匹になりました」だって。そうだ、楽しいエピソードも話さなきゃ。

みんなにエネルギーをもらって全国5ヵ所、札幌、東京、名古屋、大阪、福岡の日帰りセミナー「輝く動物看護師になろう 飼い主さんとのコミュニケーション」に行ってきまーす。